

# 防災の輪を広げよう

## ～東日本大震災から5年、忘れない～

代表者 酒井善紀（医学部医学科3年）

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、東日本大震災から、5年を迎える今年度、防災の大切さを、地域のイベントに参加し、また、フォーラムを開催することによって、学生の目線から伝えていくことを目的としています。また、このプロジェクトに参加するメンバーは『防災ネクストプログラム』の第一期生であり、防災に関して知識を深め、様々な実習等を行ってきたことから、その学びを地域社会に還元できればと考えて、当プロジェクトを実施いたしました。一人でも多くの人に、防災を身近に感じられるようになってもらうことを目指しています。さらに、本プロジェクトに関わる学生自身も、自分達の知識を深め、より実践的なものになるように学んでいきます。

### 2. 実施期間（実施日）

平成27年4月1日 から 平成28年3月31日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、地域の方を対象にしたアンケートを行うことにより、回答していくなかで防災について考えてもらう場を設け、また、防災食を試食してもらい、実際に防災に関することを地域の方に体験していただきました。

今回、このプロジェクト事業では、三木町の「獅子たちの里 三木まんて願。」でブースをいただき、地域の祭りに参加された方へのアンケートと、防災食の提供、災害・防災に関することの展示を行いました。また、学生内の勉強会として、工学部のシステムを用いた避難訓練のシュミレーションとHUG（避難所運営ゲー



（HUGの説明風景）

ム)の訓練を行いました。その他、他の団体のイベントで、アンケート結果の展示をさせていただきます。さらに、3月には、防災学生フォーラムを幸町キャンパスにて開催し、香川県内の学生の防災に関する意識向上とともに、関連する知識や技術の習得、コミュニティの造成を達成できました。

「獅子たちの里 三木まんて願。」におけるアンケートでは、今後予測されている災害に関する簡単な設問や、回答者の災害への対策状況、防災イベントなどへの参加意欲に関する設問を回答していただきました。また、そのアンケートの最後には、災害時にお勧めする防災食を提供し、試食による防災への関心の変化なども答えていただきました。

まずはじめに、このアンケートの結果を記していきたいと思います。

#### 〈アンケート結果及び感想〉

- ・今回、このアンケートには計174名の方に答えていただくことができました。
- ・このアンケートでは、10代以下の方から70代以上の方まで、幅広い年齢層の方に答えていただくことができました。私たちメンバーも、普段、地域住民の方の声を聞くことはあまりできていなかったのも、色々な立場の方の声を聞くことができたのは、良い経験となりました。
- ・予測されている災害についての簡単な設問としては、南海トラフが30年以内に何パーセントの確率で起こると言われているかを知っているかどうかを聞き、数値を記入していただきました。この結果、正答率は、約10%という結果となりました。南海トラフに関する知識は、曖昧にしか理解していない人が多く、「今現在の」正しい情報を知ってもらった上で、なおかつ「正しく怖がる」ことが大事だと感じました。
- ・続けて、住んでいる地域でどのような災害が起きるかイメージしているかどうか尋ねました。その結果、災害のイメージをしている方は約60%程度で、そのほとんどが近年の報道やイベントによる影響か、地震や津波に偏りがちでした。三木町なら川や池の氾濫、高松市の沿岸部では、高潮なども身近な災害として考えられ、地元の土地柄を踏まえた地震以外の災害についても、知識を普及していくことが大事だと感じました。一方、イメージできていない人の意見として、「香川が平和である」という意見があり、香川の災害が少ないという地域性と関連して、原発の「安全神話」と似たような状況が起こっており、危機感が足りないように感じました。同様に、「想定できないからイメージできない」というような回答もありました。想定外の事態にも対策することが減災につながり、その対策を実行に移すためには、ある程度のイメージを持つことが大事であるので、災害対策のためのイメージは常日頃から持ってもらい、いざという時に慌てないでいられるように普及していきたいと考えました。また、「災害は、忘れたころにやってくる」という言葉があるように、忘れず長期にわたった対策ができるようにも働きかけていきたいと思います。
- ・回答者の災害への対策状況に関しては、まず、住んでいる地域の防災マップやハザードマップを見たことがあるか、避難所がどこにあるのか知っているかを質問しました。

ハザードマップは、予想以上に知っている人がおり、三木町では、公共施設などで見かけることもあり、この結果の要因の一つかもしれないと思いました。ハザードマップは災害をイメージする有効な手段であり、災害のイメージを想定できる人を増やすためにも、ハザードマップを周知していくことも大事だろうと考えています。理想を言うならば、その地域の方々が自力で作ってみると、防災意識の向上や地域のコミュニケーション能力の上昇にもつながり、災害時に役立つであろうと考えました。また、避難所についても知っている人は多かったので、さらにハザードマップ等を利用して、避難所を知っている人が100%に近づければ、なお良いと考えています。しかし、併せて避難所の特性を知っているかを、避難所の場所を知っていると答えた方を中心に問うと、避難所にネガティブなイメージを持っている人が多いことが印象的な結果となりました。避難所の環境を良くしていくことが、今後の行政の防災対策の一つのポイントなのかもしれないと考えます。しかし、避難所を知り、避難の判断を最終決定するのは、行政ではなく住民なので、住民に対して避難所の正しい知識を伝達するのは、災害時にスムーズに避難してもらう上で大事であろうと感じました。

・次に、災害に備えて準備をしているかを聞き、はいと答えた方を中心に、非常用持ち出し袋を準備しているかと、避難ルートの確認をしているか、複数のルートを考えているかを聞きました。その結果として、準備をしている人は、決して多いと言えない状況でした。さらに、非常用持ち出し袋となると、さらに準備している人が少ない状況でした。はじめから全てを揃えようとするのではなく、「何が必要か話し合っただけ、その都度買い足していく」など小分けにして準備をすると、金銭的に余裕があり準備しやすいのではないかと考えています。少しずつ揃えていくことが、防災意識を途切れさせないためにも大事であると考えているので、無理をしない防災の準備を広めていきたいです。避難ルートに関しては、日ごろ利用している、あるいは想定しているルートがダメになっても、他のルートを考えておけば、慌てることなくスムーズに避難できるので、複数のルートを考えておくことが大事であると考え、質問をしました。しかし、複数のルートを考えている人は多くはありませんでした。

・防災イベントなどへの参加意欲に関する設問としては、まず、防災に関するイベントに参加してみたいか、ご近所の方や知り合いと一緒にあれば参加してみたいか、自主防災組織の活動に参加しているかを尋ねました。その結果、防災イベントに参加してみたい人は多かったです。さらに、同行してくれる人がいるとさらに参加意欲の上がる人は多いので、ぜひお誘いあわせの上参加して欲しいと思います。欲を言うならば、誘われる側から誘う側になってもらいたいです。また、私たちも、積極的にイベントを行っていかると良いと思いました。また、自主防災組織の活動参加者以外の人にも、多くアンケートに答えてもらえたので、少しでも多くの立場の方に防災について考えてもらえたらと思っています。そして、これを機に自主防災組織に興味を持ってくればなお良いと思いました。

また、この「獅子たちの里 三木まんで願。」では、防災食として、乾パンやお湯で作れるご飯、缶入りの長期保存用のパン、じゃがりこで作ったポテトサラダなどを試食していただきました。防災食というと、質素で味気ないイメージが多いかもしれませんが、最近のものは、種類に富んでいて、また、工夫をすれば防災食もより良くでき



るということが少しでも伝わったと思います。実際にアンケートでは、防災食の試食で、「防災への興味がでた」と答えてくださった方が多くいらっしゃいました。またここで、アンケートで備蓄食料に何が必要と感じたかも答えていただきました。備蓄食料といえ



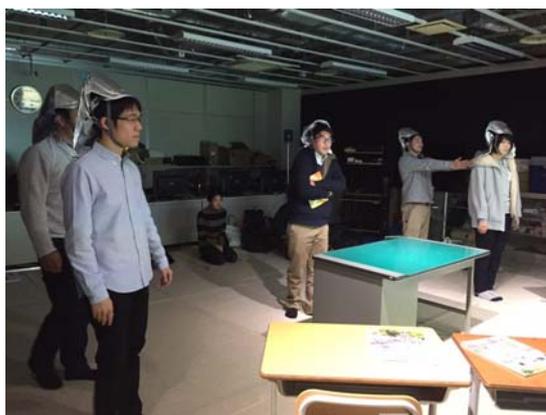
ば、まず挙げられるのは水で、その他にも多くの種類のものを挙げていただくことができたのですが、想定している災害や家族構成により、種類だけでなく保存期間や量が問題になることも考えられるので、そういった点にも目を向けて準備してもらいたいと思いました。たとえば、試食では、じゃがりこで作るサラダを提供したが、じゃがりこの賞味期限は3ヶ月程度と通常の非常食に比べ期限が短いため、注意が必要である、というところ

です。また、長期保存可能食品の賞味期限についても、期限が過ぎていないか確認を怠らないようにすることも重要であり、家の備蓄品は、こまめな確認と期限切れの非常食の入れ替えが、安心できる避難所生活を送る上でも必要であることも伝えていきたいと思

います。最後に、アンケートで一定以上の回答をされた方に、防災に対しての意識を持ったきっかけを尋ねました。そこでは、今では色々なところから情報を手に入れられるので、防災に関する情報も手軽に手に入れられることが、この質問の回答からも伺えました。しかし、その中から正しい情報を選び出すためには、より多くの情報を得ること、偏った情報のみ集めないことが重要であるとも感じました。その上で、正しい情報を取捨選択し、「正しく怖がって」もらいたいと思

います。加えて、「獅子たちの里 三木まんで願。」では、津波に関するポスター展示と、私たちが作成した非常持ち出し袋を展示し、説明しました。特に非常持ち出し袋には興味を持ってくださる方も多く、昨今の防災に対する意識の向上を実感したとともに、より多くの人に、非常持ち出し袋を用意していただけるよう、広めていけたら、と改めて思

1/10には、メンバー6名、メンバー外3名(2年生2名、1年生1名)で、勉強会を実施しました。この勉強会では、工学部で開発された、避難訓練のシミュレーションシステムを使わせていただき、メンバー外の学生に体験していただく形で進めていきました。私たち学生は、防災について学ぶことは多いのですが、人に教えたり、まとめたりすることにはまだ慣れていない部分も多く、良い経験となりました。



また、学内の学生とはいえ、香川大学のシミュレーションのシステムを知っていただくことができました。引き続き、これら香川大学の防災への取り組みを、地域の方にも知ってもらえるような活動を行っていきたいと思います。

シミュレーションの後には、そのメンバーで机上訓練のひとつであるHUGを実施しました。HUGは、避難所運営を紙の上で行い、次々と来る避難者やイベントに対応して

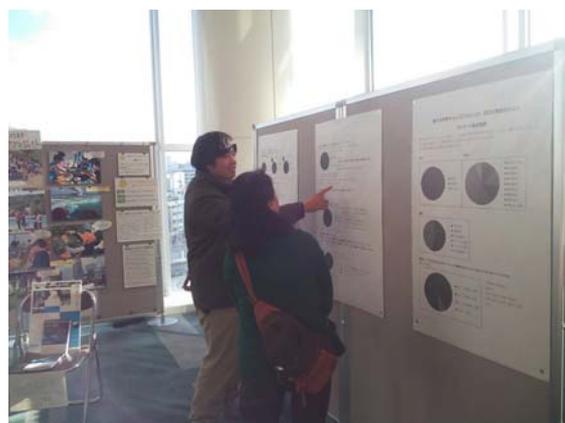


ていくゲームです。今回集まっているメンバーには、このような机上訓練は、2回以上行っている学生は少なく、良い練習の機会となりました。自分達で大事なポイントを見つけ、アドバイス役、ファシリテーターができるよう、練習を重ねていきたいと思っています。

さらに、1/15には、外部団体の東日本大震災復興支援チャリティーフォーラムに、お手伝いとして参加させていただくと共に、「獅子たちの里 三木まんで願。」でのアンケート結果を、ポスターにて報告する機会をいただきました。他の団体の活動を見て学ぶことも多くあり、良い経験となりました。また、色々な団体間で情報を共有し、協力、助け合っていけたら良いと感じました。今後も、アンケートの結果を、より多くの人に知っていただき、防災について考えてもらえるように活動できれば良いと思います。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより学生の目線から防災について考え、地域に発信する機会を設けることができました。より多くの人に防災について触れる機会となったのではないかと思います。近年、災害への危機感は薄れつつあると感じておりますが、そのような今だからこそ、地域における役割として、災



(アンケート結果の説明風景)

害について再認識していただくという役割を果たせました。また、本学の行っている防災の取り組み、活動を、地域の人に還元、報告する場となりました。さらに、幅広い年齢、立場の方に影響を与えることができました。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクト事業に関わった学生は、本学で防災について学ぶ機会を講義などで得た学生が中心でしたが、外部団体で聞いたお話などには、知らないことも多く、より発展的なことを学ぶことができました。また、自分達の学んだことを発信していくことができ、学びを地域に還元することで、地域の人とのコミュニケーションの中でしか得られない、発信の工夫の大切さや考え方などを得ることができました。

加えて、今回のメンバーは、教育学部、法学部、農学部、医学部と多彩な学部構成となっていて、さらに3、4年生という、就職活動や留学、研究などを各自が行っている中で活動ができたので、本学で防災について学ぶ後進の学生の、今後の活動の参考になることができました。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本プロジェクトで一番大きな反省点と致しましては、1月に計画していた子供向けイベントが、人数が集まらず中止になってしまったことです。広報の工夫や対象に工夫を重ねる必要がありました。機会があれば、このようなイベントを、今一度開催してみたいと思います。

また、多彩な学部の学生が集まっている分、メンバー間での連携や意思の疎通を図ることが難しい状況で、上手くいかなかった点多々ありました。工夫をして、さらに、学部間の連携がとれたらよかったです。

最後に、次年度に向けて、これまで防災に関して勉強してきている後輩に、私たちの活動を知ってもらい、興味を持ってもらうとともに、今年度実施できなかった、子供向けの防災イベントを開催できればと考えています。学年間、学部間の連携を今年度以上により良くなるように図り、より多彩なメンバーで今後も防災に関する活動をできたらと思います。

## 7. 実施メンバー

代表者 酒井 善紀（医学部3年）

構成員 先森 永葉（農学部3年）

松原 龍（法学部4年）

益田 萌里（法学部3年）

樫本 諭（法学部3年）

生田 仁志（法学部3年）

清水 竜馬（法学部3年）

山本 啓（教育学部3年）

三好 美玖（農学部3年）

前田 安里沙（農学部3年）